

会員アンケート実施報告

1. 実施概要

- 実施期間：2022年11月8日～12月2日
- 実施対象：日本臨床腫瘍薬学会（2022年11月8日時点の全会員）
- 実施方法：Google フォームを利用、URL を email にて配信
- 設問数：全 28 問、所要時間 5-10 分程度、無記名形式
- 配信数：5343 名（事務局より送信, エラー返送件数を除く）
- 回答率：16.4% (878 名)

2. 回答者について

Q19. 年齢

	n	%
20代	67	7.7
30代	390	44.6
40代	295	33.8
50代	98	11.2
60歳以上	24	2.7
計	874	

Q21. 職場の種類

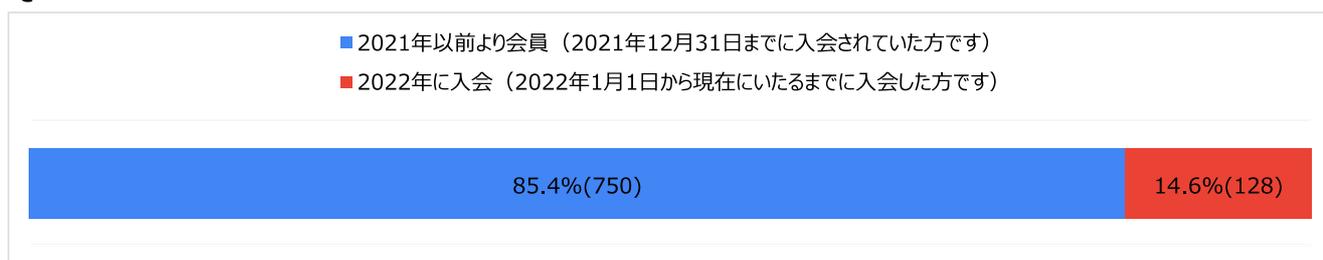
	n	%
病院・診療所	540	61.8
薬局	313	35.8
教育機関	11	1.3
行政機関	1	0.1
製薬企業	2	0.2
製薬企業以外の臨床開発系企業	2	0.2
学生	1	0.1
その他	4	0.5
計	874	

Q20. 都道府県

	n	%
北海道	48	5.5
青森	9	1.0
岩手	8	0.9
秋田	5	0.6
宮城	12	1.4
山形	4	0.5
福島	8	0.9
埼玉	64	7.4
千葉	56	6.5
茨城	25	2.9
栃木	10	1.2
群馬	11	1.3
東京	102	11.8
神奈川	63	7.3
山梨	5	0.6
新潟	16	1.8
長野	18	2.1
富山	2	0.2
石川	7	0.8
福井	4	0.5
愛知	37	4.3
静岡	19	2.2
三重	7	0.8
岐阜	16	1.8
大阪	44	5.1
京都	17	2.0
奈良	4	0.5
滋賀	10	1.2
和歌山	7	0.8
兵庫	33	3.8
岡山	14	1.6
広島	17	2.0
山口	10	1.2
島根	3	0.3
鳥取	4	0.5
香川	7	0.8
愛媛	8	0.9
徳島	4	0.5
高知	4	0.5
福岡	56	6.5
長崎	14	1.6
佐賀	7	0.8
大分	10	1.2
熊本	11	1.3
宮崎	10	1.2
鹿児島	7	0.8
沖縄	11	1.3
その他	0	0.0
計	868	

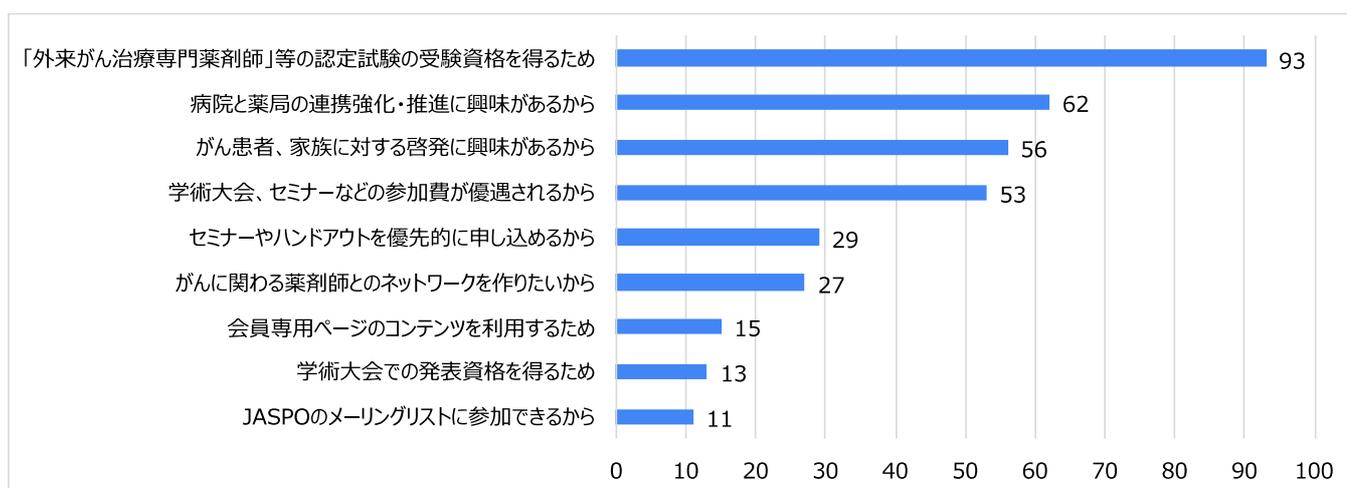
3. 集計結果

Q1. あなたはいつ入会されましたか？

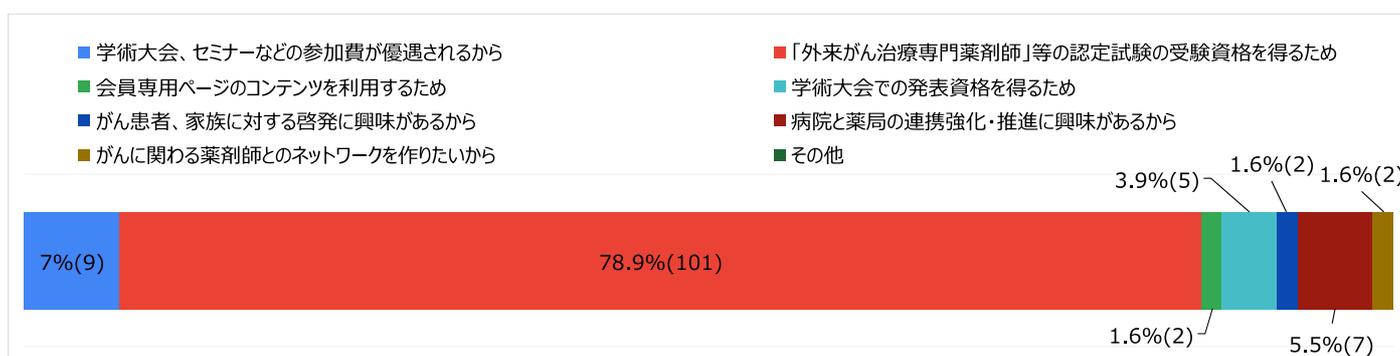


JASPO への入会理由に関する質問（2022 年に入会した方を対象）

Q2. JASPO への入会理由はなんですか？当てはまるものを全て選択してください（複数回答可）

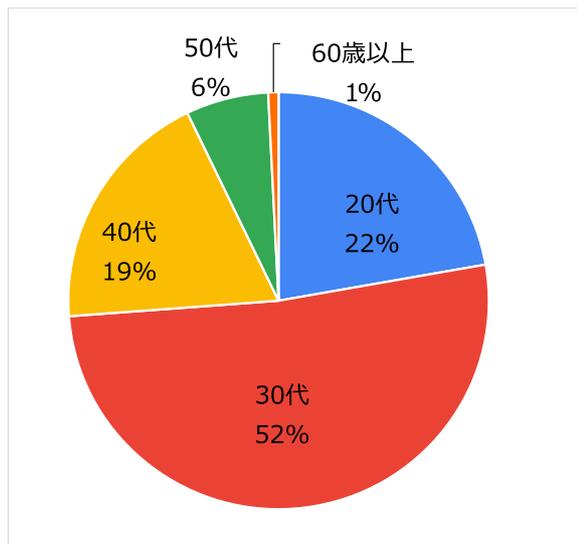


Q3. JASPO への入会理由はなんですか？最も当てはまるものを1つ選択して下さい。(n=128)

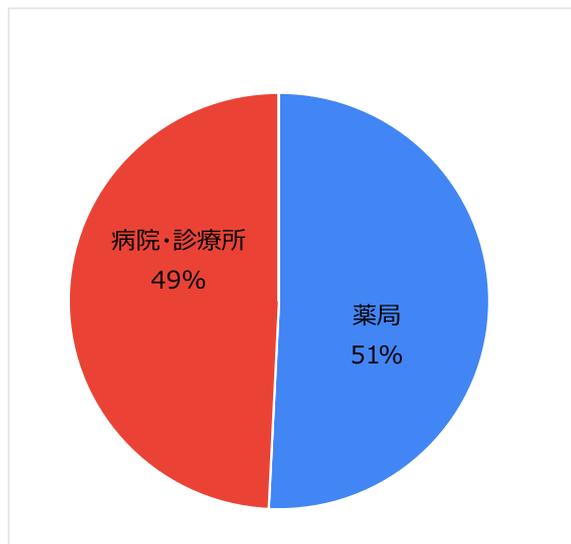


今年度新規に入会された会員の分析

〈年齢別〉



〈職場の種類〉



- ・ 新規に入会した会員を年齢別に分類すると、30代が最も多く52%であり、次いで20代が22%、40代が19%であった。
- ・ 職場の種類における分類では、薬局が51%、病院が49%であった。

最大入会理由	人数	関連する入会理由 (%)		
		第1位	第2位	第3位
認定制度	101	第1位: 病薬連携 (52.5)	第2位: 啓発活動 (45.5)	第3位: 参加費優遇 (37.6)
参加費優遇	9	第1位: 認定制度 (44.4)	第1位: 啓発活動 (44.4)	
病薬連携	7	第1位: 参加費優遇 (57.1)	第2位: 優先申込 (42.9)	第3位: 認定制度 (28.6)

- ・ 新規に入会された方の最大入会理由と、その他にも入会理由があれば選択して頂いた。
- ・ 最も多かった最大入会理由は認定取得のためであり、その他の理由に病薬連携が挙げられた。
- ・ 次に多かった最大入会理由は参加費優遇であり、その他の理由として認定制度が挙げられた。
- ・ 認定制度以外の最大理由を選択された方でも、その他の理由として認定制度を挙げた方が多かった。

JASPO のそれぞれの事業への満足度に関する質問 (n=878)

Q4. 学術大会、講演会、セミナー、研修会の開催



Q5. 病院と薬局の連携強化・推進への取り組み



Q6. 臨床研究の支援、調査研究の実施に関する取り組み



Q7. 薬剤師または多職種の情報交換、相互交流の推進に関する取り組み



Q8. がん患者、家族に対する啓発活動



Q9. 専門性を有する薬剤師の養成・認定に関する取り組み



Q10.ホームページおよび学会誌による情報発信

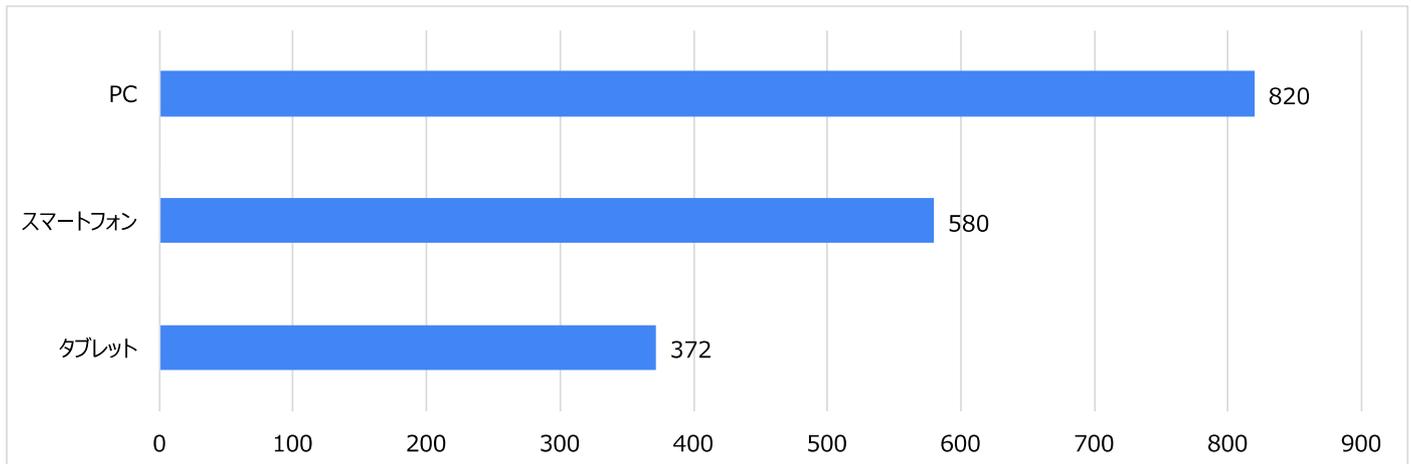


Q11. JASPO に入会されてからの、総合的な満足度はどのくらいですか？

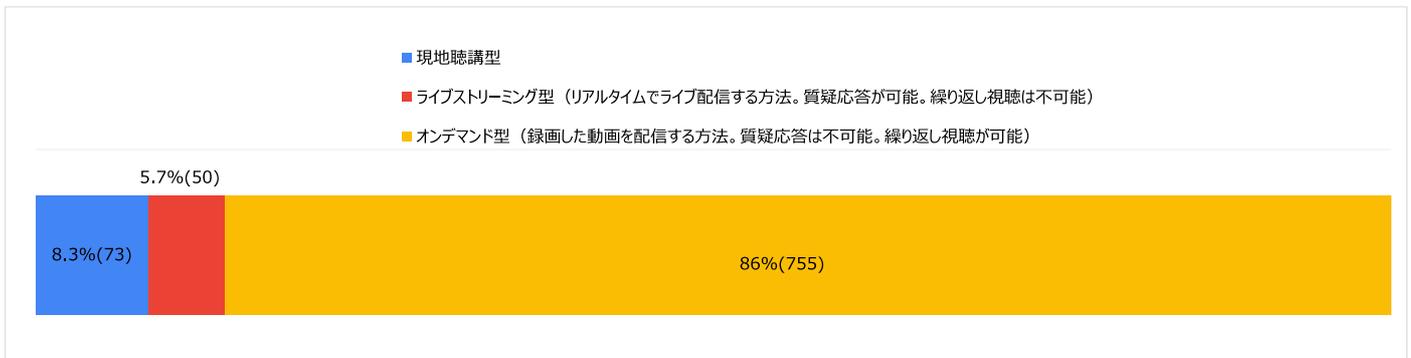


セミナーに関する質問

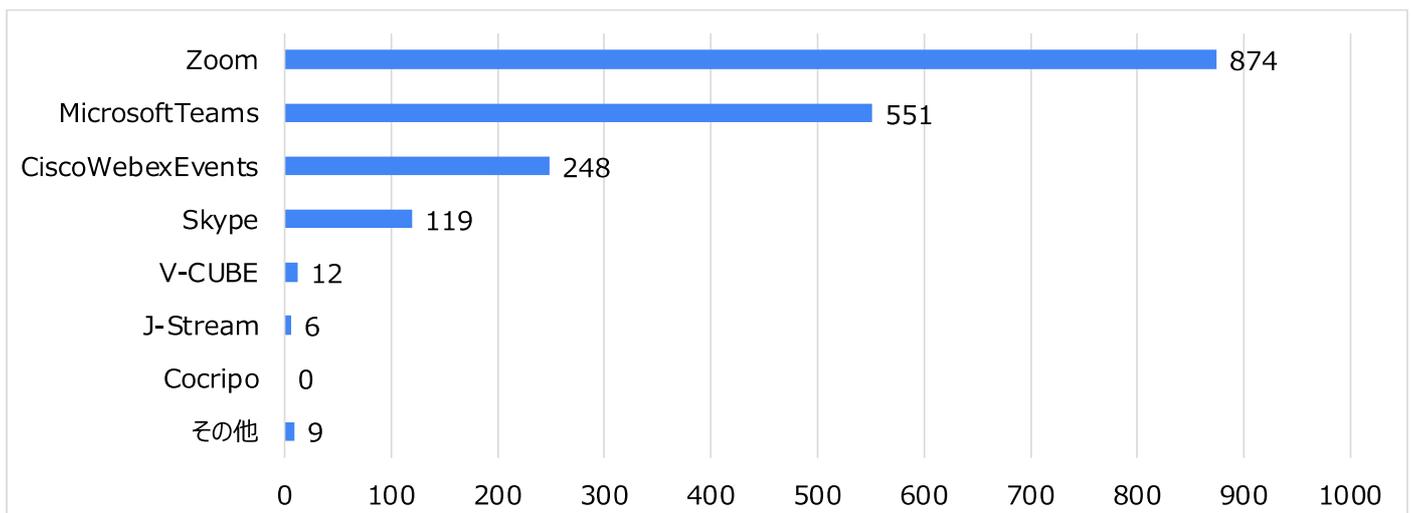
Q12. インターネットを利用したセミナーの受講の際に、使用可能なデバイスは何ですか？（複数選択可）



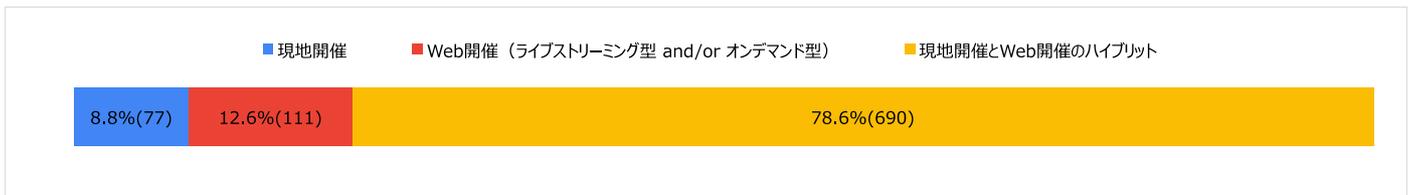
Q13. 今後、セミナーを受講する際に、最も利用したい方法はどれですか？



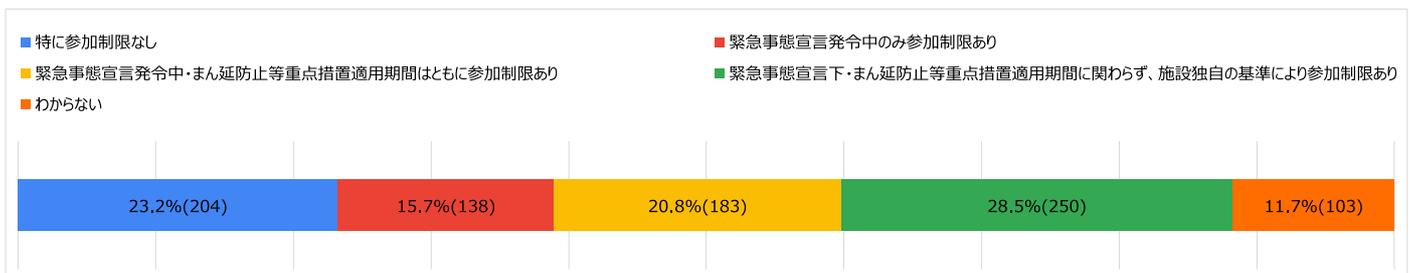
Q14. インターネットを利用したセミナーを受講する場合、あなたが使用可能なツールは次のうちどれですか？（複数選択可）



Q15. 今後の学術大会について、どのような形式を希望しますか。(n=878)

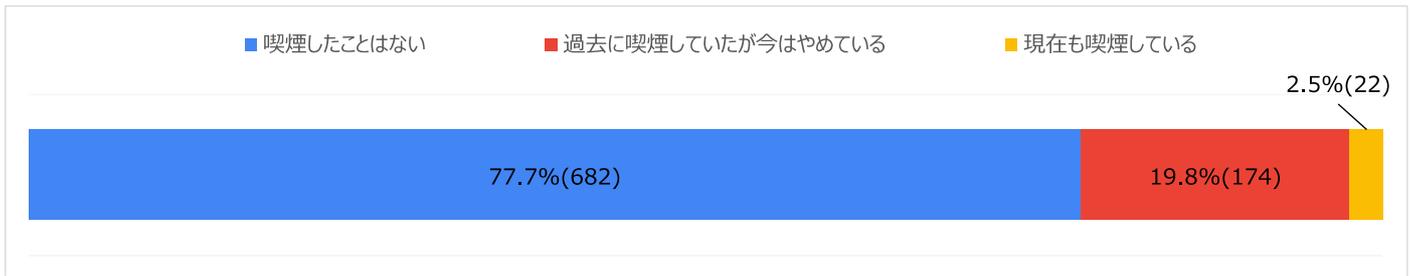


Q16. 現地開催であった場合、所属施設の基準より新型コロナウイルス感染症の状況によって学術大会への参加制限 (都道府県をまたいだ移動の制限など) はありますか。

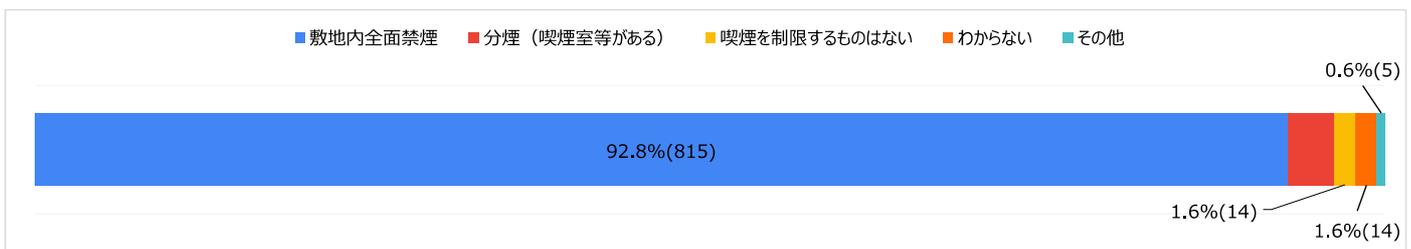


禁煙に関する質問

Q17. あなたは喫煙していますか？(n=878)

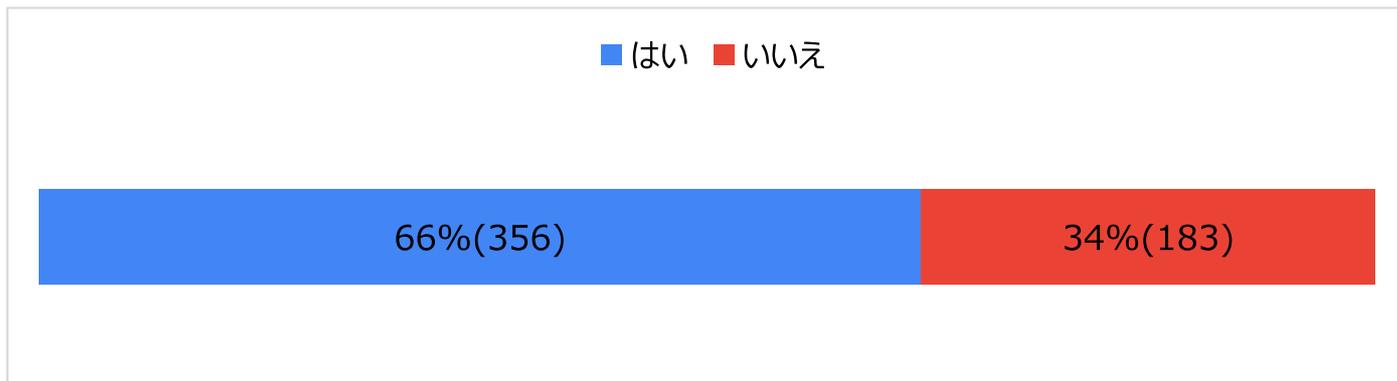


Q18. あなたの職場の喫煙環境を教えてください。(n=878)

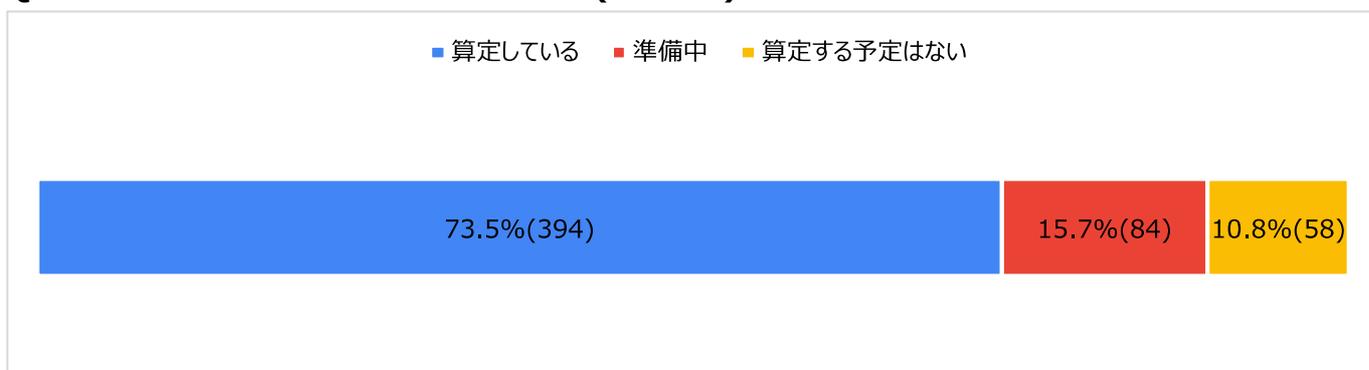


【「病院・診療所」と回答された方に質問です】

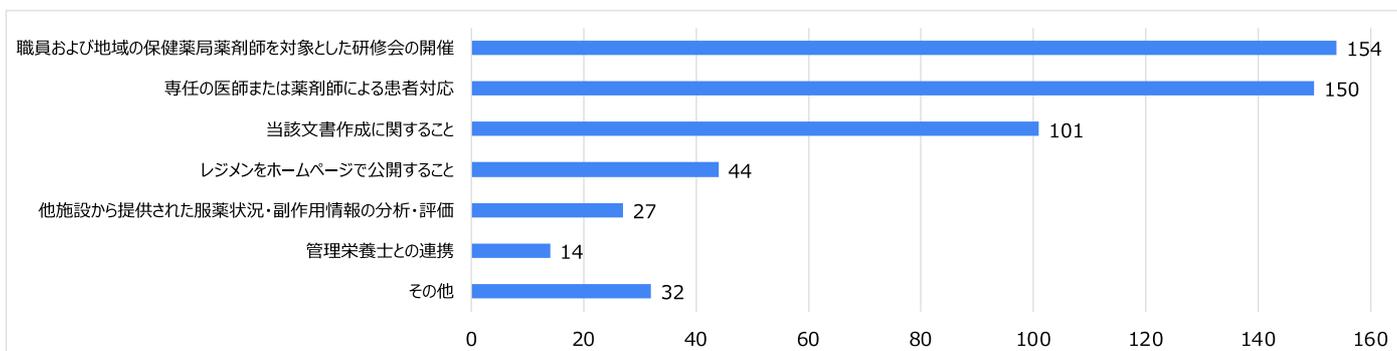
Q22. がん診療拠点病院、または地域がん診療病院ですか？ (n=539)



Q23. 連携充実加算を算定していますか？ (n=536)

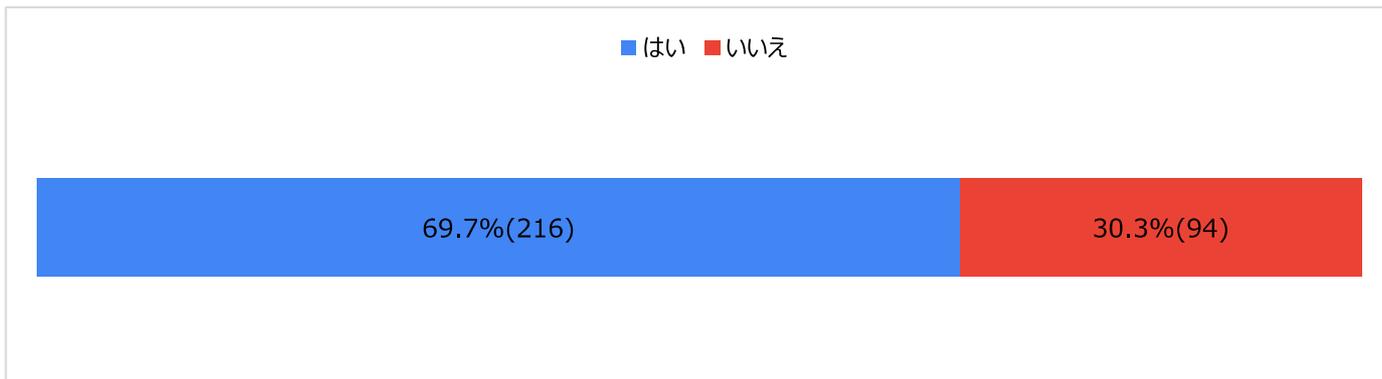


Q24. 連携充実加算を算定するにあたり、最も大変な点はなんですか？ (n=522)

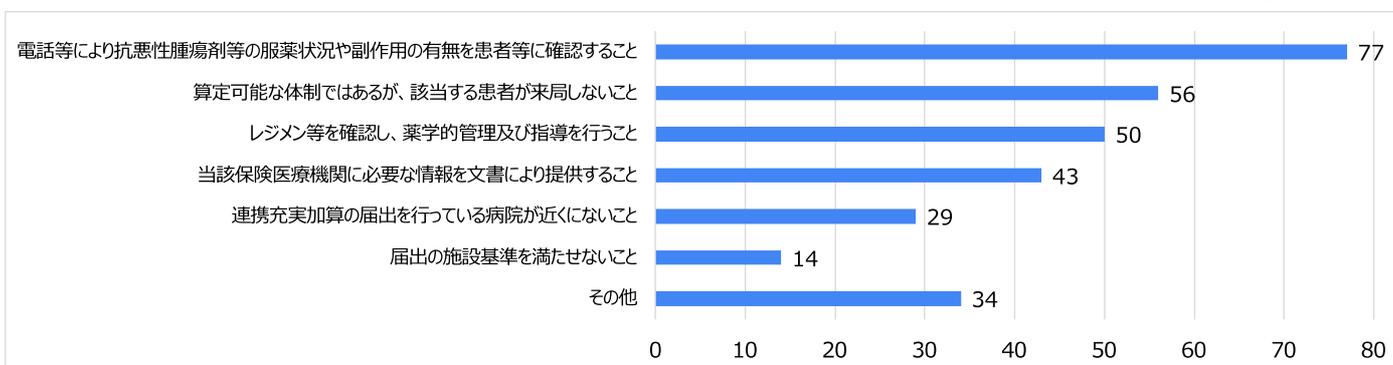


【「薬局」と回答された方に質問です】

Q25. 特定薬剤管理指導加算 2 を算定していますか？ (n=310)



Q26. 特定薬剤管理指導加算 2 を算定するにあたり、最も大変な点はなんですか？ (n=303)

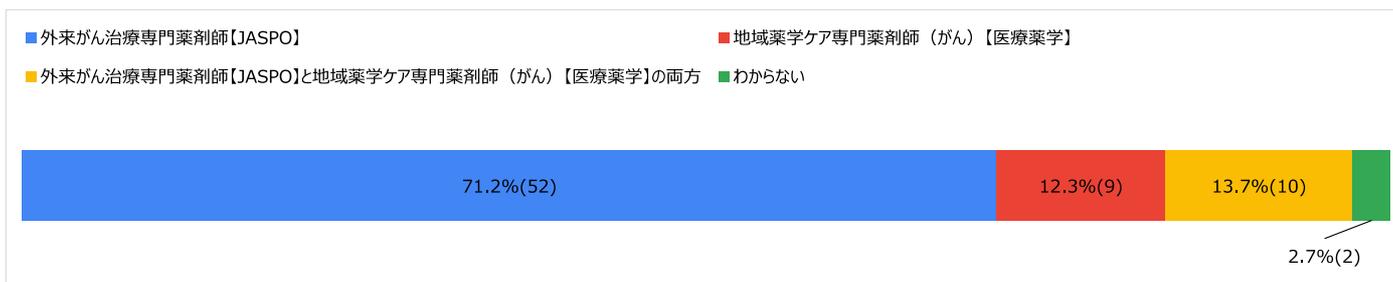


Q27. あなたの職場は専門医療機関連携薬局ですか？ (n=308)



Q28. あなたの職場に配置されている専門性の認定を受けた薬剤師は？ (n=73)

(Q27で「はい」と答えた方に)



JASPO の各事業の運営に関して、改善点やご意見ご要望がありましたらお書きください。

学術大会、講演会、セミナー、研修会の開催に関するご意見、ご要望 140 件

● 講演内容について 42 件

➤ 要望 28 件

- ◇ 各種ガイドラインの解説の種類が増えるといいなと思います 2 件
- ◇ 毎回同じ講師でないようにしてください 2 件
- ◇ 緩和ケアの研修会が少ないと感じます
- ◇ 症例検討会などのセミナーを実施してほしい
- ◇ 今後も症例を取り扱った研修を希望します
- ◇ 添付文章や適正使用ガイドを読み返すようなセミナーや研修会は改善してほしい
- ◇ セミナーは資格取得者のためのアップデート講座を設けてほしい
- ◇ 医師からの講義も聞きたい 2 件
- ◇ 休憩中に見たいので可能であれば一時間以内を希望
- ◇ 講義時間の短縮
- ◇ セミナーは資料・内容とも素晴らしいのですが、視聴期間が短い時があるのでもう少し長めにしているだけで助かります
- ◇ がん種ごとの治療選択の最新の動向や起こりやすい副作用、その対策や注意点など、院外の薬剤師に求める知識やスキルやって欲しいことを教えてほしい
- ◇ 新薬やガイドラインの変更多いので、そこに焦点を当てるセミナーを希望 2 件
- ◇ エッセンシャルセミナーは前年度からの更新部分のみ分けてほしい。さすがに毎年 2 万は高すぎる。
- ◇ セミナーが変わり映えしない 2 件
- ◇ エッセンシャルセミナー 内容とともに講師も刷新してほしい
- ◇ エッセンシャルセミナーは、内容が昨年と違ってもらえると嬉しいです
- ◇ エッセンシャルセミナー-neo c-プログラムが期待と違っていた
- ◇ Essential Seminar の新薬紹介が 3 つに分散されていると時間や受講料の負担が大きくなる。それ以外が毎年ほとんど変わらないので、新薬紹介だけ別にまとめてもらいたい
- ◇ エッセンシャルセミナーと認定資格筆記試験内容に乖離が大きいです。必死に勉強したため何とか合格はできたが、あれほどの高い難易度なら、多くの過去問をセミナー内で公開すべきと思います。病院薬剤師寄りの試験内容で、保険薬局薬剤師にとっては難易度が高すぎです。外来がん治療認定薬剤師の趣旨と試験内容に乖離が大きすぎです。例えば細かい TNM 分類についての設問があった記憶がありますが、保険薬局での患者さんフォローにどれだけ必要でしょうか？もっと現場で必要とする知識の設問が望ましいと思いました。現状通りの設問の筆記試験で行くのであれば、エッセンシャルセミナーはもっと受験者に配慮した内容であるべきだと思います
- ◇ 学術大会は内容がつまらなかった。また盛り上がり欠けた（仙台）。セミナー、研修会は人数が集まる分クオリティを高めるか参加費を、安くするかしてほしい。特に大学教授が教科書通りの講義をしているのは無駄だと感じる。
- ◇ 2020 年学術大会のような初学者向けの basic セミナーの実施を、今後の学術大会で検討頂けると幸いです

◇ 一般公開講座を増やし薬剤師のがん患者へのかかわりをもう少しお知らせして欲しい

➤ 良い 14 件

◇ 満足している 3 件

◇ コロナで学会に現地参加できていないため 4 としましたがセミナーには満足しています

◇ 多くのセミナーを企画してくれるので学びたいものを選んで研鑽できるのでありがたい

◇ セミナーの受講や APACC 認定を意識した学習を始めるにあたり、今まで如何に的外れなフォローアップやフィードバックを行っていたかを反省しました。病院との連携や患者治療の向上の為、これからも継続して受講・参加していきたいと思えます

◇ 毎回、それぞれのレベル、スキルに応じて様々な角度からの研修会が企画され、勉強させていただいております

◇ いつも大変勉強になってます

◇ 様々なセミナーがあって良いと思えます。他学会が主催している勉強会とも差別化されており、良いと思えます

◇ とても内容も様々で学べる内容が多いです

◇ 内容は充実しており啓発させていただいている

◇ 多様な会員によく対応できている

◇ 精力的に活動されていて非常に良いと思えます。セミナーの数も多くて good です

◇ 学術大会は非常に満足しております

● 開催方法・開催期間について 64 件

➤ 要望 59 件

◇ 今後も WEB の開催も残してほしい 15 件

◇ 座学の講演・研修会は web 開催を希望 2 件

◇ 必須のセミナーや研修会は web で行ってほしい

◇ オンライン開催の導入で参加ハードルが下がった。育休中にもありがたい。だが顔を合わせたの場もあった方が良いので、ハイブリッド開催が一番嬉しい

◇ オンデマンド視聴希望 3 件

◇ オンデマンドでも質疑ができるようになると嬉しい

◇ これからもできることならハイブリッドで開催してほしい 5 件

◇ コロナがある程度終息しても、学会や研修会はオンラインも行ってほしい

◇ 学術大会のハイブリッド開催を続けてほしい 3 件

◇ 学術大会の発表で現地と Web を選択できるようになればと思う

◇ セミナーの開催期間にもう少しバラつきがあると受講しやすい 5 件

◇ ブラッシュアップセミナーと Essential セミナーは時期が被らないように設定されていると有難い 2 件

◇ 頻度が低いと感じます

◇ セミナーの日程が昨年度よりも早かったので、受講しやすかったです。(特にブラッシュアップセミナー)

◇ スタートアップセミナー・ブラッシュアップセミナーと、Essential セミナーABC の時期をずらして欲しいです。今年は特に、ブラッシュアップセミナーと Essential セミナーC と医療薬学会の薬物療法集中講

義が重なり、忙しく思いました。

- ◇ エssenシャルセミナーをもう少し早く開催してほしい
- ◇ セミナーの開催期間をもう少し延ばして欲しい 3件
- ◇ エssenシャルセミナーの視聴期間を1ヵ月ほど設けていただきたい
- ◇ Essential セミナーは、ABC 毎の間隔が狭いので、ずっとセミナー受講に追われているように感じる
- ◇ 学術大会や Essential Seminar などの動画の配信期間が短い 2件
- ◇ 動画の倍速再生ができない
- ◇ 学術大会のアーカイブをもっと勉強したいです
- ◇ 学術大会のオンデマンド配信は再生箇所を自由に選ぶことができる柔軟なシステムにしてほしい。
- ◇ セミナー間の開催間隔の延長。特に Essential Seminar の ABC。
- ◇ 動画配信期間をもう少し長くして欲しい 2件
- ◇ セミナーの内容を会員限定でアーカイブ化してほしい
- ◇ 参加したセミナーを永久的に見るようにしていただきたい、使用する資料をデータでも交付していただきたく思います。

➤ 良い 5件

- ◇ 一部セミナーは web で配信なので何度でも見返せるのが良い
- ◇ web 開催もうまく併用して、学習しやすい
- ◇ オンデマンド配信は非常に助かる
- ◇ ちょこちょこやってくれるので助かってます
- ◇ 子育て中のためオンライン開催が大変有り難く、更新断念することなく継続できる上、業務にも役立つため大変ありがたい

● その他 27件

- ◇ セミナー・研修会の資料を PDF でいただきたい 3件
- ◇ セミナーを日病薬の単位がもらえるようにしてほしい
- ◇ セミナーの単位が JASPO の認定の単位にしかないこと。他の認定の単位も請求してほしい。
- ◇ 研修センターの点数が取れると良い 2件
- ◇ 参加費をもう少し安くしてほしい 10件
- ◇ 他学会では無料の研修会もあり、研修会の参加費用についてご検討いただきたい
- ◇ 色々研修会があるのはよいが、金銭的に選ぶしかない
- ◇ セミナーの値段が高いため、視聴期間が短い
- ◇ 学術大会における他の会の単位研修シールについて、分かりにくさや取得の難易度(取ろうとすると見れるものが限られる)等がもう少し改善して欲しい。勉強会のキーワードは昨年度よりわかりやすくなってよかった
- ◇ 薬剤師会の単位との連携があるのはいいのですが、お陰で聴講が制限されてしまいました 対象のものとそうでないものが混在していたため
- ◇ 学術大会を地方で開催するのはやめてほしい。地方から地方への移動は時間がかかる

- ◇ 学術大会が他の学会と同様の時期の開催であり参加が難しい場合が多い
- ◇ オンデマンドでの開催もあり、非常に助かっていますが、申し込んでも、いつの間にか開催期間を過ぎてしまっていることがあり、残念に感じています。リマインド等あれば非常に助かります
- ◇ 教育研修委員会の委員として、現場の皆様のご要望に沿ったテーマが選出出来ているのか、アンケート結果から分析を深めたいと思います
- ◇ 更新のための単位が複雑

● 要望 23 件

- 薬局薬剤師の病院研修はあるが、病院薬剤師の薬局研修や見学なども是非検討してほしい 3 件
- 特定の診療報酬は無いが、病院と診療所（併診しているとき）の取り組み事例も知りたい
- 薬局薬剤師は情報も知識も不足しているため、知識や症例の共有を推進して欲しい
- がん診療病院連携研修以外にも薬局薬剤師が病院研修に参加できる機会を作ってほしい
- もう少し薬局薬剤師の踏み込んだ症例報告が聞きたい
- 保険薬局側の取り組み実例をお伺いしたいです
- 薬薬連携の推進に向けて、事例紹介など多く取り上げてほしい
- 学術大会でご発表される連携事例は、いつも同じ病院と薬局が多いのが気になります。多種多様な連携の在り方を学術大会でもご紹介頂きたいです
- トレーシングレポートの活用方法や薬局薬剤師の認定取得へのアドバイスが出来るオブザーバーの派遣
- モデルケース、使用資材、連携の取り方、始め方についてご指導頂きたい
- 連携のシートのサンプルなどを作ってもらえるとありがたい
- もう少し大々的におこなう必要があると考えます
- 地方は特にですが、県の薬剤師会と病院薬剤師会の隔たり、連携にたいしての熱意の差を感じます。各薬剤師会を巻き込んでの連携推進への取り組みについて研修等でアナウンス頂ければ幸いです
- 地域差がある領域のため、各都道府県や地域毎等、規模を縮小した取り組み報告があると参考になると思います
- 地域毎にフォーカスを当てた企画も期待
- 病院にもよるが、病院発信の薬局への取組は充実しつつあるものの、薬局発信の病院への依頼（かかりつけ患者なので退院時サマリー希望など）を受けて頂けると助かる
- 病院薬剤師として連携充実加算の算定を含めた外来がん患者指導業務をしております。薬局からのフィードバックが少ない現状があり、薬局薬剤師の方がどういった情報提供を望まれているのか知る機会があると嬉しいです
- がん診療病院連携研修のカリキュラムやスケジュール例等の情報が欲しい
- 症例提出の際、癌種の記載を求められますが、連携充実加算の必須項目ではありません。調剤薬局側が病院サイドに個別に聞いていくのもありますが、学会が調剤薬局も癌種を知って化学療法を進めていく必要があると考えているのであれば病院側に対して癌種を記載するよう働きかけて欲しいです
- 診療報酬がきちんと算定できるようにしてほしい（地域差がないように）
- 病院研修だけでなく、JASPO の活動が地域に薬局まで広がるようお力添えをしたい

● 感想 28 件

- 連携は非常に重要であると考え
- 連携強化と言っても第一歩が踏み出せない
- 連携を形になるまで推進することは大事
- 地域ごとに事情が違うので、参加したいと思わない

- 私は保険薬局ですが、連携に関しては地域や病院さんの差が大きいと感じます。
- 一地方ですが、やはり薬局に取り組みへの温度差があるのは否めません
- 連携充実加算導入後、副作用予防等での効果が実感出来ない
- 病院スタッフの負担がかかるまた、コロナということもあり、なかなか連携が進みにくい
- 薬剤師の力を上げる/組織としての取組を促すのを一緒にやらないと難しい気がします。各組織に、ちゃんとやれる人材がいないと推進しても効果がない気がします。
- コロナで連携が弱くなった気がします
- コロナ禍に入ってワークショップが開催されにくくなったのが残念です
- 連携に関するセミナーや学術大会セッションがあり勉強になる
- 病院薬局間の連携については事例も多く参考になる情報が入手できる
- 特に薬局薬剤師への背中を押していただける内容が多く、ありがたい
- 薬局薬剤師の意識向上が少しずつ進んできた気がします
- 病院研修を今後受け、専門薬剤師になる人材が増えると助かります
- それこそが JASPO の強みだと思うので様々なことを推進していただきたい
- 他の団体ではできないことに取り組んでいる
- 共同勉強会などつながりをつくっていくためにはどのようにしたらいいのか
- 連携強化や推進が、少しずつ職場で実践できてきました
- メーリングリストによる質問で、病院は薬局の、薬局は病院の、それぞれの考え方を相互に共有できたと感じることがあります
- 双方からの考えが聞けるので勉強になります
- 病院薬剤師のことがちょっとずつ分かってきました
- 病院薬剤師が行っていること、保険薬剤師が行っていることを相互に理解していないと連携しようがない。現状のセミナーでは各自が各自の行っていることを前提に学習しているだけなので、相互連携には繋がらないうらと思う
- 病院、薬局での知識、仕事内容の違いをそもそも把握されていないが、その意見交換がなされていない
- 門前病院では外来化学療法の方へ指導に行くことが出来ていないと聞いた。病棟優先になると思うが、病院同士で取り組みの共有などはされていないのでしょうか？
- 当院では外来初回ケモ時には連携をとるようにしております。しかし、外来対応の為のマンパワーの不足（外来連携よりも入院指導を優先）で上記満足とは言えません。例えば、国が、連携充実加算を入院指導料と同等以上にしていただければ、変わると思いますが
- おそらく大学病院、がん専門病院等地域の中核病院では進んできていると思います。地方の 1 病院だと病院のスタッフや近隣の薬局薬剤師のモチベーションもあり普及、強化がなかなか難しいのが実感です

● 提案 5 件

- 保険薬局との連携は、現状では病院発信のことが多く、連携の内容も個々の病院の方針に任せられている印象を持っております。連携の形を定め、その可否を薬局と病院が相談していくと良いと思いましたが
- 他の学会よりも先に、保健薬局薬剤師さんを対象とした資格制度を確立した先見の明は、素晴らしいと思います。今後は他の学会との差別化とその効果の検証(資格の有無による差別化と他学会の資

格との差別化)が必要ではないでしょうか。外来患者を対象としているとかではなく、本質的な違いが必要かと思います

- 連携は病院にかかる負担が大きいため、学会でシートや手順書などのひな形案を参考として挙げていただく等があれば助かる。薬局側も算定を取る方向に動くのは助かるはずなので、薬剤師会等と連携して取り組んでいただく事はできないか？
- 貴学会の学術集会や学会誌以外での情報発信等の働きかけがあると良いと思います
- 都道府県の薬剤師会を巻き込めるとよい

● 不満 22 件

- まだまだ改善の余地はあると感じる
- 地域性に関係ない施設からの研修を依頼される
- 専門医療機関連携薬局の要件があとから、病院研修ありきになった点
- 外来がん治療専門薬剤師となったが、応需する医療機関に施設内薬局ができ、患者が来なくなりがん患者の対応ができなくなった
- 病院薬剤師の薬局対応に時間がかかりすぎる
- トレーシングレポートに対する返答がない。患者情報の公開共有が進まない
- 認定症例の2次査読を担当したが、薬局症例の評価が厳しすぎる印象。入手可能な情報などを病院と同等と勘違いしている査読者もいる
- 保険薬局薬剤師の認定者増加が、そこまで進んでいないのでないか
- 薬局へのアナウンス不足
- 学会の寄与がよくわからない
- 実地ではあまり実感できない 5 件
- 学会が具体的に何をしているのか分からない 7 件

- 支援に関して 7 件
 - 良い 4 件
 - ◇ 研究助成金や海外研修が充実している
 - ◇ 研究助成について、薬剤師免許取得 10 年未満の薬剤師を別枠として設けると改訂したことは評価できる
 - ◇ 研究費はありがたい。
 - ◇ 非常に助かります。
 - 要望 3 件
 - ◇ 1 件当たりの上限額をもう少し上げてはいかがでしょうか。
 - ◇ もう少し研究費助成金が多いと申し込みやすい
 - ◇ 症例報告など、エビデンスレベルが低い研究にも支援があると、取り組みやすくなります。

- 研究に関するご要望 12 件
 - 連携 5 件
 - ◇ JASPO 会員施設を対象として学会主導の臨床試験をやってみたいです。
 - ◇ もう少し多施設で研究を行えるような、学会のサポートがあればよいと思う。
 - ◇ 他の病院と繋がるような取り組みがあるとよい
 - ◇ 大学関係との連携強化やグラントの獲得支援
 - ◇ 病院主導が多いため薬局主導の研究が立ち上がって欲しい。
 - やり方 4 件
 - ◇ 保険薬局における臨床研究の実例をお伺いしたいです。
 - ◇ 薬局での臨床研究のやり方を教えていただきたい
 - ◇ 臨床研究したいが時間がないと感じている中小病院向けに、そのような中でも臨床研究できたという事例を知りたい
 - ◇ 研究方法等の講義の実施
 - その他 3 件
 - ◇ JASPO としてエビデンスを発信できることを期待します。
 - ◇ 今後に期待しています。
 - ◇ 成果（複数査読のある論文作成率）を何処かでご報告いただきたい。

- 実施に関して 11 件
 - 臨床研究をするハードルが高い 2 件
 - こちらも大変多くの題材を提供いただいておりますが、これを活かしていくのが今後の課題です。
 - 協力できない医師が多い医療機関では現状難しい。
 - 職場ありきなため、自分一人の判断では参加しづらい
 - とくに意見をするほど、接していないのが現状です
 - 取り組めるほどの知識と時間がありません。

- まず個人や組織単位での臨床現場と大学との繋がりを強化しないと厳しい
- 学会としての歴史の浅さが制約になっているかもしれない。
- 継続的に学習していきたいです。
- 実際に使うことがないので何とも言えませんがー。

● 活動が見えない 9 件

- 一般会員には学会としての活動内容や実績が伝わりにくい。 3 件
- JASPO が支援していることが、会員に広く伝わっていない印象があります。研究成果がどのように活かされるのか、その先のお話まで学術大会などでご紹介されるとメリットも感じるかもしれません。
- 現在どういった臨床・調査研究が行われているのか、そのどの部分に対してどういった取り組みをされているのかが見えないように感じます。そこをもっと明確にさせていただけると助かります。
- 臨床研究を行っているイメージがない
- 周知不足
- 上記同じように見えにくい。セミナー等で触れてはいるが、実際に動く際の手がかりとしては薄い気がしている。
- 支援金などがあることを把握しているくらい、。。

薬剤師または多職種の情報交換、相互交流の推進に関する取り組み 60 件

- メーリングリスト関連 11 件
 - 良い 9 件
 - ◇ メーリングツールは非常に便利だと感じるし、情報共有に役立つ 3 件
 - ◇ メーリングリストでの情報交換は勉強になっています。 2 件
 - ◇ ML での意見交換は参考になるので継続いただきたい
 - ◇ メーリングリスト機能は有効であると考え。
 - ◇ ジャスポの代理投稿は参考になります。非常に良いと思います。伺いたいのですが、この投稿と回答内容は、ジャスポのホームページのどこかで何時でも閲覧できるのでしょうか？メールしか見れないのでしょうか？
 - ◇ メーリングリストはとても助かる。しかし、メールは過去のやり取りを探しづらいので、掲示板のようなものができるとうれしい。
 - 敷居が高い 2 件
 - ◇ なかなかメーリングリストの敷居が高いような気がする。もう少し、敷居の低い情報交換、相互交流もあってもいいかなと、。。。
 - ◇ メーリングリストへの投稿について、会員数増加に伴い統制を重視せざるを得ない分、投稿へのハードルが高いと感じます。個別性が高い事案こそ日々の臨床で立ち止まる疑問として浮上することが多いので、適応外使用やエビデンスに答えのない臨床疑問に対して最適解を導き出すための情報共有ツールがあったらよいなと思います。理想ですみません。。。
- 多職種に関するご要望 11 件
 - 講義・企画希望 7 件
 - ◇ 学術大会の講演にもっと多職種からの講義を聴きたい。
 - ◇ 栄養指導がある程度できるような知識やスキルに関するセミナーもやってほしい
 - ◇ 具体例がおもいつきませんが、今後、薬剤師業務に関連する多職種からの講義を企画するのもよろしいかもしれません。（すでに企画されていたらスミマセン・・・）
 - ◇ 検査技師の講義
 - ◇ 多職種による勉強会やディスカッションをする機会が増えると良いです
 - ◇ 年会のシンポジウム等でもう少し企画があっても良い気がします。
 - ◇ 多職種連携をテーマにがん患者のサポート事例をお伺いしたいです。
 - JASPO の学術大会、セミナーなどに、他の職種の方々の参画が少ない印象があります。もっと広く情報を交換する場を設けることで、新しい視野が開けるように思います。
 - 学会に薬剤師以外の参加がふえるとよい
 - 看護師など多職種を巻き込んで活動を期待します
 - 在宅含め他職種とどのように取り組んでいけばいいのか、そのために必要な知識を深めていきたい
- 活動が見えない 17 件
 - 学会としての取り組みを知らない 5 件

- 具体的にはどのような活動ですか？活動が見えないです 5件
- あるように感じられない 4件
- 多職種との協働に関する取り組みは、まだまだこれからでは？
- JASPO に入会しているから多職種と交流できるようになったという実感はない。
- 多職種間での情報交換についてはまだ情報が少ないため

- コロナによる影響 4件
 - コロナにより対面での交流ができていないので3にしました
 - コロナの関係もあり、この点は難しいと思います。
 - 現地開催ならより活発でした
 - Face to Face の関係を再度取り戻せるように頑張ってください。

- その他 8件
 - いわゆる門前薬局をメインとした連携・研修会に留まっているケースがまだまだ多いと思う
 - 研修会などでの交流があった後の繋がりが続かないこともある。
 - 他の学会と比べて非常に進んでいると感じております。
 - 必要性を感じています。
 - 不満はないが、本学会が担う役割なのかは、疑問に感じます。薬物療法を多職種で支援する(チーム医療の実践)という意味でしょうか。
 - 薬学会なので、まずは薬剤師間の交流をもっと促進するのはいかがでしょうか
 - 参加させていただき、勉強になります。病院は病院、調剤薬局は調剤薬局で、ある程度グループ分けしていただくと助かります。
 - 学術大会中心？

がん患者、家族に対する啓発活動に関するご意見、ご要望 53 件

● 現状の活動に関するご意見 14 件

- いつも学術大会で枠を設けられており良い。
- 学会における笠井さんの登壇はすごく意味のあるところだと思います。
- 昨年笠井さんなどががん体験者の話を紹介するのは良かった。
- アナウンサーの笠井さんとの交流はよかったと思います。笠井さんによりがん治療における薬剤師のかかわりも世間に知ってもらおう契機になったとおもいました。
- 医療学会全般に言えますが一般的には医師会などテレビに出る学会しか知らないと思う。周知は難しいのでは？今回のように有名人がゲストとしてくるのは啓蒙には役立つと思います。
- がん患者・家族からの意見を集約して公表している。とても参考になります。
- このまま続けていていただきたいです
- コロナ下で制約が大きい？
- JASPO を知るがん患者・家族は少ないように思える。
- 認知度がまだまだだと思います。
- 資格取得しても宣伝ができず、資格が認知されているとは思えない
- 未だ広がっている実感がない。
- 医師ががん患者への傾聴が行えておらず、薬剤師や看護師で聞き取りを行い医師へフィードバックしています。ただ医師が聞き入れてもらえないため難航しているのが現状です。
- 不満はありません。私が不勉強なのかもしれませんが、何かされていることはあるのでしょうか。専門スキルをもった薬剤師を育成し、支援するという意味では、本学会の役割は担えているのではないのでしょうか。

● 今後の活動に関するご要望 14 件

- がんの専門資格をもっと一般の方にアピールする必要がある。
- もっと積極的にするのがいいと思われます
- 引き続き啓蒙活動が必要
- 患者だけでなく、健常者への啓発活動も重要と考えます。
- 患者家族が参加しやすい学術大会の開催
- 学校薬剤師など活用して教育機関でのがん教育を進めても良いのではと思います。
- 他の学会とコラボレーションしたらいかがでしょうか？
- Oncolo Channel や大塚製薬女性の健康推進プロジェクト等、You Tube チャンネルがあると紹介しやすいです。
- オンコロなどと連携していくともっといいなと思いました。
- 患者団体に参加したらどうか。
- 今後、デジタル世代の高齢化が進んでくるため、各種メディアとのタイアップがどこまでできるかが焦点になるかもしれません。
- 今後の PPI 活動なども期待します。
- これからに期待です。
- 今後に期待しています。

- 活動が見えない 11 件
 - 取り組みを知らない 8 件
 - 特に学会が会員に対してやっていることが見えてこない 3 件

- その他 4 件
 - 職場で可能な限り、実践していきたいです。患者や患者の家族に、感謝される機会が、学習後、増えました。
 - 必要性感じます。
 - 恥ずかしながら、意識して考えたことがありませんでした。
 - 薬局ではまだまだ話をしてくれない、病院で話をしてるからとなってしまうことも多いので、もっと患者さん自身のために薬剤師として話をしていかなければならないと思いました。

- 学会の取り組みに対して肯定的な意見 14 件
 - 講習会をこまめにやっていただきありがとうございます。
 - APACC や病院研修など、web を使ったシステムが構築されていて、とても良いと思います
 - 制度化がマッチしている活動だと思います。
 - これから研修受けたいです。
 - システム化されてよい仕組みと思います。
 - 人数が少ない中、病院研修の受け入れを増やして頂いて感謝しております
 - 支援していただけてとても助かります。
 - 周りに参考にできる薬剤師がいないため、非常に助かっています。
 - 研修病院で研修できるのはいいと思う
 - 素晴らしいと思います
 - 私自身も、外来がん治療専門薬剤師（暫定）を有しています。自身のモチベーションも上がりますし、この資格をもって当院も貴学会研修施設に認定されました。また近隣の開局薬局（アイン薬局）から 12 月より薬剤師が研修生として来られます。良い制度だと思います。
 - 各種バックアップがなされており、特に問題は感じておりません。
 - セミナーや病院研修は良いものであると考える。
 - 受験資格の要件に施設基準がないのが素晴らしいことです。

- 認定試験について 5 件
 - 特に認定試験において、薬剤師が主導権をもって合否の意思決定をしてほしいです。医師のコメントはあくまでアドバイスだという認識で頑張ってください。
 - 認定試験、特に事例(10 症例)で不合格だった際、不合格理由は必要ありませんが、提出した症例のなかで、不合格となった症例番号をアナウンス頂ければ次年度の受験にいかせるのですが、ご検討いただければと思います。
 - 試験の合格率が低いので裾野が広がらない。
 - 試験の受験場所を多くして、自宅近くで受けられるようにしてほしい。そこが CBT 試験の良いところの一つだと思います。試験会場まで 2 時間半はきついです。
 - 土曜日営業されている薬局が多いと思われるため、認定試験は日曜日に開催していただければ幸いです。

- 認定期間・更新について 4 件
 - 認定更新について保留条件緩和を検討してほしい。それぞれの家庭事情だったり環境事情だったり理由がある。
 - 更新が 3 年は短いです
 - APPAC から BPPAC への切り替え、更新方法が複雑で理解に時間がかかります
 - 認定期間が短い。途中の確認テストなどで失格などはありだと思いますが、申請書類・更新料などはもう少し期間があってもいいと思います。

● 認定取得の難易度について 4 件

- 認定での症例の基準について委員によって意見が違ふ。例えばある委員は普段の業務を報告すれば良いと言うし、ある委員はそれなりに介入した症例でないといけないと言う。
- 症例で不合格となった場合、間違っただけを続けていけないために理由を教えてください。
- 薬局薬剤師にとってはハードル（特に 10 症例集めること）が高すぎると思います。
- 中小の病院や薬局は在籍する Dr や診療科の問題、マンパワーの問題で症例を集めることが難しいことがあります。症例が集まらなると、認定の試験が受けられないとなると専門性を有する薬剤師の養成・レベルの底上げを困難にしたいと思います。症例を集めることも大切かもしれませんが、薬学的介入に至らないが患者さんや Dr・多職種と関りをもって活動することも数多くあります。もう少し、受験のためのハードルを下げただけだと拠点病院などの大病院以外で働く薬剤師のモチベーションも上がると思います。ご検討の程よろしくお願ひいたします。

● BPACC の取り組みについて 2 件

- 実地研修も行う専門薬剤師制度を設け、より現場に即した実用的な資格になると思ひたい。だが研修生の質の担保は必要。
- 上位資格を設けても良いと感じます。医療薬学会や日病薬のがん認定の違いがあるといい。

● 認定を取りたいけど取れない 2 件

- 病院薬剤師が外来がん治療専門薬剤師を取得するためには、一度認定薬剤師を取得しないといけないことが納得できず不満を感じる
- 病院でがん薬物療法認定薬剤師として長期に活動している実績があるにも関わらず、調剤薬局へ転職して外来がん治療専門薬剤師の認定を受けるにあたり、再度研修施設にて長期に研修を受けなければいけない理由がわからない。直近 1,2 年のうちに、医療薬学会や日病薬のがんに関する認定取得者で、かつがん医療に従事していた（外来化学療法室に配属、病棟でがん患者をメインに携わっていた実績など）者は研修を免除できるなどの規定は作れないのでしょうか？調剤薬局は人員も少なく、研修にすら行かせてもらえない施設も多いと思います。

● セミナーに対する要望・感想 4 件

- 症例報告書の書き方等に関する講義は非常に役に立ちました。
- 薬局病院間の薬剤師の勉強は、その病院に通われる患者さんの投薬をする上では必然ですが、その点では JASPO では薬局薬剤師向けのセミナーもあり、素晴らしい取り組みと感じています。今、薬局から病院に移り、症例が非常に少ない所ですので病院病院間でも学べるセミナーがあればと感じています。
- 講習会が充実してきていると思います。もっとポイントを絞って講習のコマが多くなると各自興味あるものに取り組みやすいと思います。（2 件）

● 病院と調剤薬局の温度差 5 件

- 薬局薬剤師は全体的に病院薬剤師よりも知識不足です。足がかりを増やしてほしいなと思います。

- 薬局所属の認定者が増える傾向だが、病院の経験がほぼないケースも多く、臨床意識にかける認定者が多くなることが不満
- 保険薬局では電子カルテを見れない都合上、症例作成の精度にばらつきが生まれやすい。何らかの形で支援できないだろうか。
- 薬局薬剤師として勤務しています。病院勤務の薬剤師の方々のやりとりを拝見し、正直なところ色々な事が難しく感じます。
- 資格ですが、病院薬剤師と薬局薬剤師で分けた方がよいと思います。提出症例でもかなりの差があります（役割も異なると考えます）

● その他 26 件

- 専門薬剤師の病院実習が参加しにくいと感じる。
- 症例報告が上手く作成できない、医師へ薬剤介入を行うがほとんど反対され聞き入れてもらえない場合の対応方法について教えてほしい。
- 医療法上の広告標榜できる認定としてほしい。
- 問題集があってもよいのではないか。
- 学術大会での内容が、がんに興味を持ち始める世代への入口としては高いものが多く感じる。専門的な内容も大切だとは思いますが、裾野を広げるような話題も増やして欲しいと思う。
- 資格の有無による患者さんへの治療効果や QOL の違いなどがあれば良いと思います。
- 認定薬剤師のいる施設では問題の傾向をつかめていると思うので、初めてとろうとしている施設の薬剤師は不利に感じる
- APACC 事例記載例を、提出割合の多い、口腔粘膜炎や CIPN での記載例を記載してはどうか。査読していると記載方法を理解していない症例が目立つため。
- 認定者が増えるのはよいが、認定者のレベルを落とさないでほしい
- APACC 有資格者であることをがん診療病院連携研修参加要件にすることを強く希望する。研修に来た薬剤師のがん関連知識が乏しすぎる。大腸癌の代表レジメンすら言えない、胃癌・大腸癌の術後補助療法を言えない、制吐薬適正使用ガイドラインについて説明できない、など。これらについて説明するのに時間がかかる。研修費用が安すぎて割に合わない。
- 他学会の認定との棲み分け・差別化が、とても難しいけれど重要な課題だと思います。
- 研修施設が増えるとありがたいが、学会からの呼び掛けでは限界もあるため仕方ないかと思っている。
- 症例で不合格となった場合、間違っただけを続けていけないために理由を教えていただきたい。
- 6 回の算定制限をなくす
- 医薬品ベース、疾病ベースの研修は行われているが、副作用や支持療法を集中的に学習できる研修が必要だと思われる。
- 他学会含めて、がん関連の認定・専門薬剤師制度が乱立し過ぎている。臨床腫瘍薬学会で統一頂けないのかと思います。
- 病院薬剤師での有用性が薄れた
- 専門的に長年やってきていますが、対象外のように…
- 中小病院の薬剤師にも研修できる機会を与えて頂ければ嬉しいです。

- 単位取得のみの場合にも準認定などの形で認定制度創設希望
- 専門性を持たせその知識を患者の為に広めていこうという知識を得られる場が少なく、あっても時間金銭などその場を得られる機会が少ない
- 認定薬剤師の一步手前の人材が増えて行く事を望みます。
- 病院研修の研修レポートが入力しづらいため、改善を希望します。
- 学術団体として専門性を高めてほしい
- 外来がん認定は薬局薬剤師向けに講義など実施してもいいのかもしれない。
- APACC の過去問題集を販売してほしい。

ホームページおよび学会誌による情報発信に関するご意見、ご要望 39件

- ホームページおよび学会誌による情報発信に関する肯定的なご意見 5件
 - 学術的な内容も多く満足しております
 - 新薬や適応追加などすぐに DI 情報で知ることができるのが嬉しいです。
 - 満足してます
 - 抗がん剤の情報更新がもれなく拾えるのですごく助かってます
 - 参考になります。
- ホームページに関すること 5件
 - セミナーごとに違いますし、ページを探したりするのが大変と感じます。
 - ホームページに、もう少し学会や委員会、会員の活動が紹介され、「みんなで作っている感」を演出すると、より活気にあふれた学会となるのではないかと思います。
 - Web サイトがわかりづらい。
 - ネットのみでなく紙媒体も送って欲しい
 - HP 更新の案内メールがあってもよいかもしれません。（発信者側の負担や受け取り側のメール頻度等課題は上がってきそうですが・・・）
- メーリングリストに関すること 8件
 - メーリングリストが活発なのはありがたいです。参考にしています。
 - LINE とメールの両方でくるので、助かっています。
 - メーリングリストが非常にありがたいです。投稿された内容で同じ疑問を持つ同士がいることがうれしく、エキスパートの先生がたからの回答が勉強になります。
 - 以前、当院スタッフが代理投稿でお願いさせていただいた案件が投稿されなかったのが残念でした
 - 定期的な承認情報など継続してほしいです。
 - ジャスポの代理投稿は参考になります。非常に良いと思います。伺いたいのですが、この投稿と回答内容は、ジャスポのホームページのどこかで何時でも閲覧できるのでしょうか？メールしか見れないのでしょうか？
 - メーリングリストが活発なのはありがたいです。参考にしています。
 - 新薬情報の送信がとても良いと思います
- 学会誌に関すること 8件
 - 学会誌の内容は良いが、配ってほしい。
 - 学会誌をわざわざ読みにアクセスする余裕がない。
 - 学会誌は論文単位で PDF ファイルにして欲しい。今の形式では文献管理ソフトで管理する際に不便です。
 - 学会誌を充実して欲しい
 - 学会誌の論文投稿数の増加が必要である。
 - 学会誌があるのでしょうか？いただいた記憶が無いように思えますが。

- 全てオンライン公開ならば「学会誌」の体裁をとる必要がないのでは。
- 学会誌はメールに添付するなどもう少しアピールして欲しい

- その他 2件

- 恥ずかしながら、意識して考えたことがありませんでした。
- 参考にしたことがない。

- JASPO の今後の運営に関して肯定的なご意見 10 件
 - 年々意見を取り入れてよい方向に向かえていると思うので、このまま改善を続けて欲しい
 - 非常に満足しております。
 - 学術団体としての活動を期待してます
 - 引き続き宜しく願います (2 件)
 - 中堅から若手が活躍する勢いのいい学会運営だと思います。
 - 他の学会と比べ、精力的に活動されているし、若手が活躍しているのが非常に良いと思う。
 - 意見に対する改善のスピードが迅速で、柔軟に対応されているため感謝している。
 - 運営されている先生方も多忙な業務の中での取りまとめ、大変感謝しています。
 - 特に運営面では要望はありません。

- セミナー・講演会等について 12 件
 - セミナーが豊富で勉強しやすい。薬局の人へのアピールをもっとした方が良いと思います。
 - オンラインセミナーの視聴期間を長くして欲しい。
 - JASPO のセミナーの内容は、がん専門薬剤師集中講座よりも現場に即した内容となっていていいと思います。
 - 各セミナーをもう少し安価にしてほしい
 - 教育セミナーが充実していると思います(薬剤師の先生からの講義が非常に有用でした)。これからさらにバージョンを増やしていただくと大変参考になります！
 - セミナーの費用もそれなりであるが、それほどの資金が必要なのがわからない。
 - 現状のスタイルで良いと思います。もし大変でなければ、日病薬病院薬学認定シールあるいは『日本薬剤師研修センターシール』取得ができるセミナー数を増やしていただくと助かります。
 - 定期的な勉強会をオンデマンド視聴できる仕組みがあると復習もできるので助かります
 - 単位の電子化を推進していただきたい
 - コロナ前は名古屋開催が少なく大変だったが、オンライン開催を増やしてもらえて活用しやすくなった。
 - 講習会を年会費という形で徴収 (または視聴コマ数に応じて徴収) し、視聴期間を年間にできないでしょうか？
 - 勉強会、学術大会の WEB 開催は今後も残してほしいです。

- 認定試験について 2 件
 - 外来がん化学療法認定薬剤師取得による保険点数付加について積極的に動いてほしい
 - 認定資格に関する手厚い支援は、本当に素晴らしいと思っております。しかしながら会員全体の交流・情報交換が高まっておらず、一部の施設、一部の薬剤師の情報に偏っている印象を受けます。会員数が増えた今、全国に取り組みを進めている会員にももう少し光をあてる取り組みを進めて頂ければ、より良いと思います。

- メーリングリストについて 2 件
 - メーリングリストの回答者無しが発生しない様に考えた方が良いと思う
 - メーリングリストによる情報交換でなく過去の投稿も閲覧できるようなツリー形式にはできないものかと思いますがそれが可能なシステムは存じ上げません。

- その他 17 件
 - しっかりと留保しているお金を使って社会に役立つことをやってください。利益を求めない団体でお金が余っているということは、求められている活動がしっかり出来ていないのではないかとの疑念をいだかれてしまいます。年末の財務諸表で確認させて頂いています。頑張り JASPO！
 - 満足ではありますが、問い合わせに対する事務局の対応が遅すぎる気がします。2 ヶ月以上たって再度こちらから連絡してやっと対応頂いたことがありました。
 - 若い力のある先生が活躍しやすい、動きやすい環境を整えてほしい。
 - 年会費が高い、LINE の更新頻度が少ない
 - 特定の事業を進めるために理事長推薦理事がいてもいいと思う。代議員になるための会員の推薦を得ることができにくい環境の会員への配慮を。
 - 知り合い同士で活動している感がある
 - 指導管理料を取れるようにしてほしい。
 - 理事の所属に偏りがある。
 - 委員長選任が一部で適材適所となっていないと感じる
 - 病院薬剤師やかかりつけ薬剤師の要件などを撤廃すること望みます。
 - 病院研修に行かせて頂いたが、癌腫の偏りがあった。今後、可能であれば別の病院でも研修してみたいと感じた。
 - 化学療法に関して、少しでも詳しい薬剤師が増える事を望みます。
 - 申請料や手数料の価格が高い
 - 専門医療機関連携薬局の調剤報酬獲得へ学会としてアピールしてほしい
 - もう少し、保険薬剤師よりになっていただけると嬉しいです（臨床研究などは、明らかに病院向けのような気がします）
 - 病院において、がん患者指導管理料 3 で注射薬も算定できるように働きかけてほしい
 - 関係各署、団体との連携をより一層深めていく。